

三角山 に行って来ました。

市街地のそばにありながら豊かな自然を味わうことができる三角山。その魅力を紹介します。

西区の山の手地区から中央区にかけて、美しい三角形の姿を見せているのが三角山です。標高が三十一メートルと、手稲山や藻岩山より低く、子どもからお年寄りまで誰でも登れる高さです。都心から近いこともあり、西区民に限らず広く市民から親しまれています。行楽に最適なこの時期、三角山に登ってみました。

山の手草ぶえ公園から見た三角山。明治2年に開拓使の島判官が登り、札幌のまちづくりの構想を固めたのが、実は円山ではなく三角山だったのではないかという説もあります。



バスを降りると、北1条宮の沢通に、入口への案内標識が立っています。

八の坂にある「人面石」。鼻が高く、あごの長い、人の横顔に見えます。登山者には「三角山おじさん」と呼ばれています。



登山口はいくつかありますが、初めての方には、バス停から近く、最も利用しやすい「山の手側入口」がお薦めです。ここへは地下鉄琴似駅と宮の沢駅から、市営バスが出ています（詳しくは西区4ページをご覧ください）。

山の手四条一丁目のバス停で降り、緑ヶ丘療育園に向かう南側の坂を登って行くと、五分ほどで登山口に到着します。山に一歩足を踏み入れる

と、そこはもうチョウが舞い、鳥やセミの鳴き声がかたまし、木々や草花の香りに包まれる癒しの空間です。山頂までのコースも幾つかありますが、分かりやす



登山中に見つけたケシ科の植物クサノオウ。

いのは、「一の坂」から「十の坂」まで順番に登って行く経路です。所要所要にコースの案内板や表示があるので、迷わず登ることができます。

取材中何度も見掛けたキアゲハ。

